

障害者(身体・知的等3障害)の雇用による 大規模複合経営の確立

NPO法人美作自立支援センター(美作市榑原下)
https://npo-mimasaka.bsj.jp

視察受入れ 可



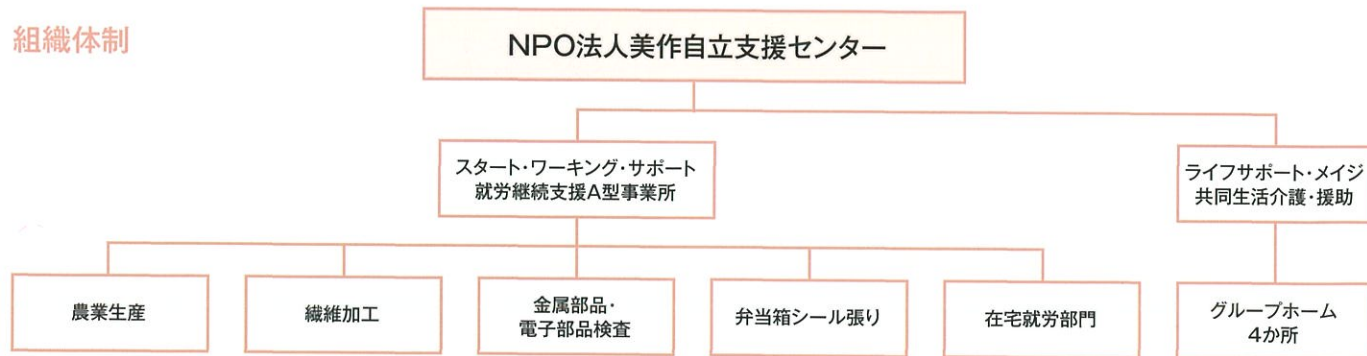
取組みの経過と事業所の概要

- ①1983年に障害者の自立と雇用促進のために、障害者2名の雇用による繊維加工を開始した。その後、障害者雇用を拡大し、1985年有限会社ヤクシを設立した。
- ②2009年にNPO法人美作自立支援センターを設立し、繊維加工に加えて自動車部品検査業務を受託し、就労継続支援A型事業所の業務を開始した。
- ③2013年に既存の部門に加えて、新たにトマトの施設栽培を中心とした農業部門を開始した。その後、稲作や地元特産品である黒大豆、露地野菜の作付けやアスパラガスの施設栽培を開始し、施設外就労として近隣農家の作業も受託している。



トマトの養液ポット栽培

組織体制



注)ヒアリング調査等により作成

経営の概要と特徴

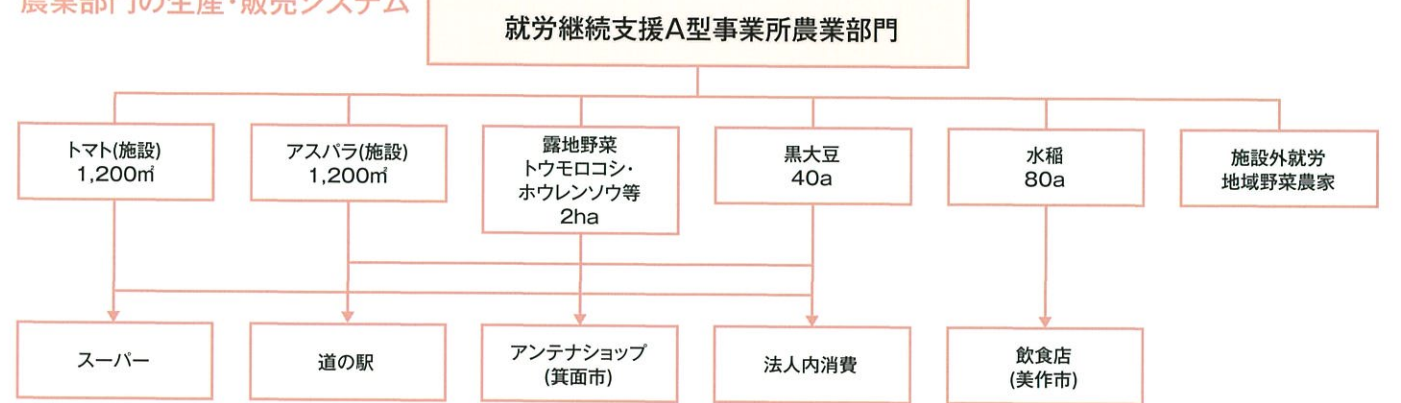
- ①農業は施設栽培によるトマト(1,200㎡) アスパラガス(1,200㎡)、稲作80a、黒大豆40a、露地野菜としてホウレンソウ1ha、キュウリ10aなどであり、四季に応じて栽培している。
- ②利用者の能力向上や地域との交流促進の一環として、2018年から近隣の大規模農家からの作業(施設外就労)も受託している。
- ③危険を伴う機械作業等(水田の耕耘、田植、刈取)は主に指導員が行うが、希望があれば利用者も担当し、作業への適正拡大を図っている。

- ④農産物の主な販売先は、地元の道の駅、大阪府箕面市にある美作市アンテナショップ、農協、主として地元スーパー、飲食店、法人内での直接販売などである。



ホウレンソウの管理作業

農業部門の生産・販売システム



注)ヒアリング調査等により作成

農福連携の効果とポイント

- ①トマトは軽いポット土を使用した低段密植栽培を導入しており、養液灌水の自動化など利用者の負担軽減を考慮するとともに、短周期での栽培サイクルにより冬期などでも安定した雇用の確保を実現している。
- ②施設栽培では作付面積を減らし、通路を通常のハウスより広くとることにより、下肢に不安のある利用者でも安心して作業ができるように配慮し、「スニーカーでもできる農業」を目指している。
- ③指導員は「利用者目線」に立ち、利用者の「相互協力」をも

とに、共同作業による利用者の連帯感を高めている。また、農業という特質上、「365日同じ作業」を行うことが難しいなかで、春夏秋冬、それぞれの季節に応じた野菜を作付けることで、熟練した利用者が経験の浅い利用者に助言や支援が出来る体制を整えている。

- ④利用者にも栽培計画に参加してもらい、「自身が育て、売るのが」という認識と成功した時の達成感などを高め、作業意欲の向上に努めている。



トマトの管理作業



きゅうりの管理作業